

努力点推進計画

1 主題 一人一人が考えを伝え合うことができる児童の育成

2 主題について

本校では、昨年度までプログラミング的思考を取り入れた学習に重点を置き、自分の考えを基に試行錯誤しながら課題を解決することができるよう努力点を推進してきた。その実践の中で、課題を解決するために自分の考えを修正し、粘り強く考える態度を高めることができるようになった反面、自分の考えを友達に分かりやすく伝えることができなかつたり、友達の考えを理解できなかつたりして、友達と互いの考えを共有し、自分の考えを高め合うことが難しいという児童の実態が明らかになった。

そこで本校では、「伝え合う力の育成」に重点を置き指導を行う。「伝え合う力」とは、「話す力」「聴く力」「交流する力」の言語の総合的な運用能力と捉え、自分の考えを分かりやすく友達に伝え、相手の考えを正しく理解し、友達の考えを取り入れて話すことができるよう、段階的に指導を行う。そうすることにより、「話す力」「聴く力」「交流する力」を着実に高めることができ、学校教育全般や家庭生活、そして地域社会の中でも、「使える力」として機能し、生活をよりよくすることができると思える。

令和4度は、国語科における言語活動の中の「話す」「聴く」活動を中心に行う。また、「話す」「聴く」活動の中でも、各学年に応じた課題解決学習の場面に実践を行い、課題に対する自分の考えを明確にして、友達に伝える活動を行っていくことで、相手に分かりやすく伝えようとする態度や技能を高め、自分の考えを分かりやすく友達に伝える力を育成する。

3 推進の方法

(1) 研究の方法

① 「話す」ことの系統性を生かした授業研究（今年度）

学年	特別支援	低学年	中学年	高学年
目標	声の大きさや話す速さ、姿勢などに気を付けて話すことができる	話す事柄を順序立てて話すことができる	理由や事例を挙げながら、筋道立てて話すことができる	話の構成を工夫しながら、事柄が明確に伝わるように工夫して話すことができる

「聴く」ことの系統性を生かした授業研究（来年度）

学年	特別支援	低学年	中学年	高学年
目標	相手の方を見て話を聴く	大切なことを聞き落とさずに聴く	相違点や共通点を考えながら聴く	正確に内容や意図を聞き取って要約する

「交流する」ことの系統性を生かした授業研究（再来年度）

学年	特別支援	低学年	中学年	高学年
目標	質問に答える	分からないことやもっと知りたいことを質問する	メモした要点をもとに質問したり意見を言ったりする	自分の疑問点や相手の意図や根拠を確かめるために尋ねる

・上記を各学年の目指す姿とし手立てを考え、有効性を検証する。

② 常時実践による伝える場の設定

朝の会や帰りの会などで、一人一人が自分の思いや考えなどを表現する場を設定し、日々の実践から伝える力の向上を図る。

実践例 よいとこ見付けの発表、スピーチなど

(2) 研究の進め方

① 実態把握(年度当初)

授業や日常生活の中での児童の様子を観察したり、実態調査を行ったりしながら学級や児童の実態を把握する。

② 研究授業について

各部会で検討し、国語科の授業で指導案（A4：1枚程度）を作り、1週間前までに決済を受け、前日までに配布する。複数学級の学年は、手立ての課題を改善した指導案へ修正し、別の学級で同じ授業を行う。一人一実践を公開する。また、1人学校代表として授業を公開する。その際、学校全体で事前検討・事後検討を行い、手立ての有効性を検証する。

指導案は全教職員に配布し、学習内容の共通理解を図る。研究授業をできるだけ多く参観し、事後検討会で意見交換する。また、成績処理の時期や出張、行事等との重なりを極力避ける。

③ 実践の成果を報告（形式は次頁参照）

実践の成果を1月27日までに最終報告書をまとめる（決裁は不要）。まとめたものは、50部賀田野へ提出する。また、保護者に伝えるために、学年だよりも実践内容を掲載する。

(3) 努力点研究推進組織図と年間計画、最終報告書のまとめ方

① 組織図

